私立高校に一日の長あり

一般社団法人 埼玉県私立中学高等学校協会
会長　**小川 義男**

公立高校は授業料がタダです。月額１万円の学費負担は、公立の父母に、無理ではないと思うのですが、当時の政府は、タダにしました。そのため、年間およそ6000億円の予算が使われています。国民ひとり当たり800万円の国家債務を負っている中で、これは無謀なことだったと私は思います。

私学は、大きな財政的不利さを背負いつつも、それぞれ建学の精神を大切に、日々健闘しています。「タダの学校」ではなく、あえて、学費のかかる私学を選んだ生徒諸君の事を思えば、私たち教師は、朝夕、身の引き締まるような使命感を抱き、生徒諸君と共に頑張っています。私立学校は、校長、教職員、生徒、一体となって、生徒の可能性ギリギリの限界に挑むべく、日々努力し続けています。

師弟相互の温かさ、信頼、一途さは、私立高校に来て頂かなければ分かって頂けないかも知れませんね。

歴史を振り返って、競争原理を否定した国家や体制は、すべて衰亡の一途をたどりました。学校に限らず世の中は、適切な競争原理が働いている間だけ健全に発展するのです。

そのことを自覚して、埼玉の私立高校は、納入して下さる学費以上の「教育サービス」を推進すべく全力を尽くしています。それは、埼玉の私立高校教師すべてが抱く使命感、一体感と言えるかも知れません。私は、この熱き戦列に、諸君にも加わって頂きたいのです。

学費がかかると言っても、国から、私立高校生に対して、月額１万円の支援金があります。また埼玉県では、全国トップクラスの、「授業料父母負担軽減措置」が実施されています。そのほか、様々な支援制度があります。「学費」も、決してそれほど高額なものにはならないと思います。説明会などで、遠慮なく相談して下さい。

私立高校の教師には転勤がありません。一蓮托生、みんなその学校、そこに学ぶ生徒たちと運命を共にするという、固い決意の下で働いています。卒業して10年後、20年後に母校を訪ねてみてご覧なさい。少し老い込んでいるかも知れないけれど、そこには、諸君の忘れ得ぬ教師達が笑顔でお迎えする筈です。

その時諸君は、しみじみ自覚なさるでしょう。「私立高校に我が青春を託して良かった」と。